

Next YOKOHAMA

カーチュン・ウォンのタクトで、
怪獣と名曲が会う
第410回 横浜定期演奏会

2025年9月20日(土) 15:00
横浜みなとみらいホール

指揮: カーチュン・ウォン [首席指揮者]

ピアノ: 高木竜馬

伊福部昭: SF 交響ファンタジー 第1番

ラヴェル: ピアノ協奏曲

ドヴォルジャーク: 交響曲第9番《新世界より》

S席 ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000 C席 ¥6,000 P席 ¥5,000 Ys (25歳以下) 席 ¥2,500
Ys席: 25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます。

© Ayane Sato



カーチュン・ウォン

© Yuji Ueno



高木竜馬

「オーケストラ・ガイド」
14:20 ~

日本フィル×ピティナ ショパン・コンサート

2025年10月8日(水)
19:00 開演
サントリーホール

指揮: 横山幸雄

ピアノ: 古海行子 *

ピアノ: 関本昌平 **

ショパン: ピアノ協奏曲第2番* ショパン: ピアノ協奏曲第1番** 他

S席 ¥9,000 A席 ¥7,500 B席 ¥6,500 C席 ¥5,000 P席 ¥4,500
Ys (25歳以下) 席 ¥2,500 Ys席: 25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます。

© 斉藤 元



横山幸雄

© Masatoshi Yamashiro



古海行子

© 松村 謙



関本昌平

●お客様へのお願い●

演奏中は手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。



人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

——創立指揮者 渡邊 暁雄——

日本フィルハーモニー交響楽団
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第409回

横浜定期演奏会

409th YOKOHAMA Subscription Concert

2025年7月5日(土) 午後5時開演

横浜みなとみらいホール

5:00pm July 5th (Sat.), 2025, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 神奈川新聞社、+vkk(テレビ神奈川)

協力: 横浜みなとみらいホール

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

独立行政法人日本芸術文化振興会



文化庁

このたび公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団は、新理事長として石塚邦雄氏を選任いたしましたことをお知らせ申し上げます。前理事長平井俊邦は、会長として引き続き楽団運営に携わってまいります。

今後とも何卒皆様のお引き立て、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

退任のご挨拶

このたび理事長を退任致しました。専務理事を通算すると18年、激動の中、皆様からの温かい支援の輪に助けられ、日本フィルの成長を見ることが出来ました。心より感謝申し上げます。

オーケストラの再建を使命付けられ専務理事に就任、「財政基盤の強化」「あくなき演奏力の向上」を経営目標に掲げ出発しましたが、多くの試練が待ち受けていました。まず債務超過からの脱出です。10年の歳月を要しました。リーマンショック、東日本大震災、新公益法人移行、コロナ禍等、次々と難問が押し寄せました。しかしその都度、楽団員の必死の努力に加え、人々の温かいご支援の輪が生まれ、奇跡とも思える復活を成し遂げることが出来たのです。日本フィルは幸せ者です。感謝の気持ちで一杯です。財政状況も強化され、ようやく経営も安定してきました。演奏力の向上については、アレクサンドル・ラザレフ、ピエタリ・インキネン、カーチン・ウォン、小林研一郎、広上淳一、山田和樹の定期演奏会の常連指揮者陣の活躍により、演奏水準は目覚ましい飛躍を遂げたとの評価をいただいています。

社会からの要請に応える社会性活動も大きな発展を見せています。とりわけ「被災地に音楽を」の活動は東日本大震災被災者に音楽を届け「心の復興」を支援する活動で、既に360回を超えました。「後藤新平賞」受賞が地道な活動に火を灯してくれましたが、その火は炎となり、岩手県・福島県との音楽文化・復興活動の連携協定へと広がっています。

日本フィルと共に過ごす中で、生の演奏が人の心を鷲づかみにし、閉じていた心すら開かせる場面を見聞きしてまいりました。「音楽のもつ力、の強さ、大きさに導かれ今日を迎える事が出来たこと、心より感謝致します。

後任の理事長には経済界でも大きな足跡を残している石塚邦雄氏をお迎えいたします。卓越した手腕を持つ石塚新理事長を支え、日本フィルのさらなる飛躍を目指してまいります。これまで以上のご愛顧、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

会長 平井俊邦

石塚 邦雄 (いしづか くにお) プロフィール

三越伊勢丹ホールディングス元社長/会長

1949年生まれ。1972年東京大学法学部卒業後、三越入社。2005年代表取締役社長執行役員、2008年三越伊勢丹ホールディングス代表取締役社長執行役員に就任、2012年から代表取締役会長執行役員を経て2020年退任。在任中は経団連副会長、日本住宅協会会長等の重職を歴任。現在はウエルシアホールディングス、伊藤忠商事の社外取締役をつとめる。

就任のご挨拶

このたび平井俊邦氏の後任として理事長に選任され就任いたしました。皆様には日頃より日本フィルとその演奏を愛し、厚いご支援を賜りまして心より御礼申し上げます。

平井前理事長には激動の18年間を見事な統率力と経営力で牽引され、日本フィルをさらなる高みへと導いていただきました。また「被災地に音楽を」に代表される社会貢献活動は、今日、日本フィルの特別な使命にまで発展いたしました。

オーケストラの経営というものは一筋縄には行かないものと、理事長の重責に身の引き締まる思いしておりますが、平井前理事長のご功績と熱意から大いに学び、努力して参りたいと存じます。

日本フィルハーモニー交響楽団は、1956年の創立以来、より多くの人々に音楽の素晴らしさをお届けすべく活動を続けて参りました。2026年には創立70周年という大きな節目を迎えます。芸術的にも、より一層高みを目指し、新たな挑戦へと進むことができましたら、これ以上の喜びはございません。

楽団員とともに精進して参りますので、皆様には引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

理事長 石塚 邦雄

ロマンティズムの極致、ラフマニノフの美しい音世界

2023年4月ぶりの横浜登場となる原田慶太楼指揮による絢爛豪華なラフマニノフ・ナイトです。原田ならではの溢れんばかりの音楽表現がラフマニノフの華麗なスコアを通じて華開くことでしょう。ソリストには膨大なレパートリーの沃野を開拓しつつある気鋭のピアニスト阪田知樹を迎え、音が素早く飛び交う超絶技巧が炸裂したかと思えば、蜂蜜のように甘く変容する千変万化の「パガニーニの主題による狂詩曲」をお贈りします。次代のクラシック界を担う二人のアーティストが縦横無尽に活躍する期待の公演です。

Programs

オール・ラフマニノフ・プログラム
Sergei RACHMANINOV

ヴォカリーズ op.34-14 (管弦楽版) (約6分)
Vocalise op.34-14 (for Orchestra)

パガニーニの主題による狂詩曲 op.43 (約22分)
Rhapsody on a Theme of Paganini, op.43

—— 休憩 (15分) Intermission ——

交響曲第2番 ホ短調 op.27 (約60分)
Symphony No.2 in E-minor, op.27

指揮: 原田慶太楼 Conductor: HARADA Keitaro

ピアノ: 阪田知樹 Piano: SAKATA Tomoki

コンサートマスター: 田野倉雅秋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

Profile

©Claudia Hershner



指揮: 原田慶太楼

東京交響楽団正指揮者、愛知室内オーケストラ首席客演指揮者兼アーティスティック・パートナー、アメリカでは2020年シーズンからジョージア州サヴァンナ・フィルハーモニック音楽 & 芸術監督を務め、さらに2025年7月からオハイオ州デイトン・フィルハーモニック管弦楽団とデイトン・オペラ & バレエの音楽・芸術監督にも就任した、国際的に目覚ましい活躍を続ける期待の俊英。

シンシナティ交響楽団 & ポップス、アリゾナ・オペラ、リッチモンド交響楽団のアソシエイト・コンダクターとして、またジェームズ・レヴァインやロリン・マゼールのアシスタントとしてキャリアを積みながら、ヒューストン、フェニックス、N響、読響等のオーケストラはもちろん、ノースカロライナ、シンシナティ、ブルガリア国立歌劇場などオペラの世界でも実績を重ね、最近では2024年のNISSAY OPERA ドニゼッティ《連隊の娘》や2025年デイトン・オペラでのヴェルディ《アイダ》で舞台を力強く牽引しオペラ指揮者としての資質を感じさせた。

2010年タングルウッド音楽祭で小澤征爾フェロー賞、米国ショルティ財団のキャリア支援賞6度と2023年には日本人で初めてトップのコンダクター賞を受賞。2009年キャットソルトン・フェスティバルにロリン・マゼールから、2011年PMFにはファビオ・ルイジから招待を受けて参加。第29回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、第20回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。

オフィシャル・ホームページ: kharada.com/@KHconductor



← YouTube チャンネル

【2分でわかる大人のためのオーケストラ入門 Plus+】
X、Instagram では2分バージョン配信中!

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。
ご要望の方は主催受付までお申し出ください。

©Ayustet



ピアノ：阪田知樹

2016 年フランク・リスト国際ピアノコンクール第 1 位、6 つの特別賞。2021 年エリザベート王妃国際音楽コンクール第 4 位入賞。

東京芸術大学を経て、ハノーファー音楽演劇大学大学院ソリスト課程に在籍。

第 14 回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて弱冠 19 歳で最年少入賞。

ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ

リ、聴衆賞等 5 つの特別賞、クリーヴランド国際ピアノコンクールにてモーツァルト演奏における特別賞、キッセンゲン国際ピアノオリンピックでは日本人初となる第 1 位及び聴衆賞。

国内はもとより、世界各地 20 ヶ国以上で演奏を重ね、国際音楽祭への出演多数。

2015 年 CD デビュー、2020 年 3 月、世界初録音を含む意欲的な編曲作品アルバムをリリース。阪田知樹ピアノ編曲集『ヴォカリーズ』を 2022 年 5 月に、『夢のあとに』を 2023 年 7 月に、阪田の作曲した『アルト・サクソフォーンとピアノのためのソナチネ』が 23 年 11 月に音楽之友社より出版。

内外でのテレビ・ラジオ等メディア出演も多い。

2017 年横浜文化賞文化・芸術奨励賞、2023 年第 32 回出光音楽賞、第 72 回神奈川文化賞未来賞、第 20 回ベストデビュタント賞を受賞。



© István Kohán



今日のコンサートの聴きどころは？

音楽評論家八木宏之さんの
楽しい解説をお楽しみください！

16時20分
より
大ホール内
にて♪

八木宏之(やぎ ひろゆき) ● 1990 年東京生まれ。青山学院大学文学部史学科芸術史コース卒業。愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程(修士:音楽学)およびソルボンヌ大学音楽専門職修士課程(Master 2 Professionnel Médiation de la Musique)修了。2021 年春に Web メディア『FREUDE』を立ち上げ、その運営を行う株式会社メディアシオンを設立。クラシック音楽を中心に、プログラムノートやライナーノーツを多数執筆するほか、コンサートのアフレックなども積極的に行っている。

ラフマニノフ：ヴォカリーズ op.34-14 (管弦楽版)

19 世紀末から 20 世紀前半にかけての激動の時代を生きた、ロシア出身のセルゲイ・ラフマニノフ(1873-1943)。19 世紀の香りを濃厚に宿した「最期のロマン派」ともいえるその作風は、今もなお熱狂的に支持されている。

そんなラフマニノフの代名詞ともいえるのが、『ヴォカリーズ』だ。原曲は独唱とピアノのために書かれ(作曲は 1915 年)、ロシア革命に向けた不穏な空気が立ち込める 1916 年にモスクワで初演された。初演後、憂いと憧れが交差するその曲想は大評判となり、それを受けてラフマニノフ自身によりソプラノ独唱と管弦楽、さらに管弦楽のみの編曲もおこなわれた。本日はその、管弦楽編曲版が取り上げられる。

楽器編成 フルート 2、オーボエ 2、イングリッシュ・ホルン 1、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 2、弦楽 5 部。

ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲 op.43

「ヴァイオリンの鬼才」の異名をとり、「悪魔と契約を結んだ」という伝説が生まれるほど、人間離れた超絶技法とスキャンダラスな人生を送ったイタリアのニコロ・パガニーニ(1782-1840)。中でも無伴奏ヴァイオリンのための《カプリース》に収められた第 24 曲目の作品は、後の多くの作曲家たちのインスピレーションを刺激し、その主題に基づいた数々の名作が生み出されることとなった。

ラフマニノフもそのひとりである。生前名ピアニストとしても鳴らした彼は、華麗なピアノの技法に基づき、パガニーニの原曲以上に演奏困難、かつ聴き手を圧倒するような作品を生み出した。何しろ全体の構成からして、序奏と 24 の変奏、コーダからなる大規模な構えとなっている。

なおこの作品の作曲が行われたのは、1934 年のこと。ロシア革命が勃発する中、祖国ロシアを去った彼は、果てしない望郷の念を抱きながら遠くアメリカの地で暮らさざるをえず、しかもヨーロッパではファシズム勢力が台頭しつつあった。

また、そうした状況が反映されているのだろう。ラフマニノフは、これまでも自作の中に度々転用してきたグレゴリオ聖歌《怒りの日(Dies Irae)》(その歌詞は世界の破滅を扱ったものである)の旋律…ただし近年では彼が幼少期から親しんだロシア正教の鐘の旋律という説もある…を織り込み、より劇的でまがまがしい効果を付け加えている。

楽器編成 独奏ピアノ、ピッコロ 1、フルート 2、オーボエ 2、イングリッシュ・ホルン 1、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 2、バス・トロンボーン 1、テューバ 1、ティンパニ 1、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、グロッケンシュピール、ハープ 1、弦楽 5 部。

ラフマニノフ：交響曲第2番 ホ短調 op.27

ピアノ演奏や指揮、そして様々なジャンルの曲を作曲し、生前から大音楽家としての名声を欲しいままにしたラフマニノフ。だが若き日の彼は、自信満々で書き上げた『交響曲第1番』の初演失敗により「作曲家不適合」のレッテルを貼られた結果、極度の自信喪失に陥り、音楽家人生の危機に立たされる。

だがその後、適切な治療や『ピアノ協奏曲第2番』の成功、結婚などで徐々に立ち直っていったラフマニノフは、1906年から1907年にかけて『交響曲第2番』を書く。そこには『交響曲第1番』の失敗に対するリベンジマッチという意味合いもあったため、ロシアの新聞がその一報を伝えるまで、友人たちもそのことを知らなかった。そして1908年、『交響曲第1番』の初演が大失敗した地であるサンクトペテルブルクをあえて初演の地を選び、今度は大成功を果たす。

当作品は、19世紀前半、ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770-1827)を典型として確立されていった交響曲の構造に則り、“闇から光へ”という展開をたどる。そして、大きな苦悩を経験したからこそ生み出されたであろう美しく儂い楽想は、聴き手の心を慰め、希望をもたらす。

しかも当交響曲は主にドイツのドレスデンで作曲されたのだが、これは1905年に起きた「血の日曜日事件」に見られるように、ロシア国内が不穏な要素を抱える中、ラフマニノフ自身が落ちていた環境で作曲活動に打ち込める場所を求めたため。そうした中で、いつか祖国を失うかもしれないという不安と、愛する地へ寄せる痛切なまでの想いがラフマニノフの中に生まれ、その思いが当作品にも現れたとも考えられないか。

第1楽章：ラルゴ〜アレグロ・モデラート、ホ短調、4分の4拍子〜2分の2拍子、序奏付ソナタ形式：序奏部には、全体を通じて重要な役割を持つ多くの動機が書き込まれている。「怒りの日」に基づく暗く陰鬱な響きはラフマニノフが味わった苦悩だろうか。続いて主部に入ると、彼ならではの劇的で甘美な2つの主題があらわれる。

第2楽章：アレグロ・モルト、イ短調、2分の2拍子、スケルツォ楽章：雪の中を疾走するトロイカを彷彿させるリズムをはじめ、ラフマニノフの原典ともいえるロシア風の活発な音楽が凝縮されている。

第3楽章：アダージョ、イ長調、4分の4拍子、三部形式：短い序奏の後、憧れと憂いに満ちたクラリネットの独奏（これも元をたどれば、第1楽章の序奏部に登場した苦悩を彷彿させる動機から編まれたもの）に始まる。映画等にも用いられた、ラフマニノフの代名詞といえるような楽章だ。

第4楽章：アレグロ・ヴィヴァーチェ、ホ長調、2分の2拍子、ソナタ形式：イタリアの民族舞踊「タランテラ」のリズムに基づく、2つの主題を持った祝祭的なフィナーレ。とはいえ、2つの主題の間に突如不穏な楽想が現れるのも、まさにこの作品が生まれた当時のラフマニノフを取り巻く様々な状況がもたらしたものと言えるだろう。

楽器編成 フルート3（ピッコロ持替1）、オーボエ3（イングリッシュ・ホルン持替1）、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、小太鼓、シンバル、グロッケンシュピール、弦楽5部。



Column

歴史でひもとく! 〜クラシックこぼれ話 by 小宮正安

ラフマニノフとドレスデン



曲目解説でも触れたように、ラフマニノフは『交響曲第2番』を、主にドイツのドレスデンで作曲した。なお彼が家族とともにこの街に滞在したのは、1906年から1909年にかけてのことである。（といっても滞在の期間は主に冬を中心としており、夏の間は自身が別荘を構えていたこともあってロシアに戻ったり、パリをはじめヨーロッパ各地を訪問したりもしているのだが。）

それにしても、なぜドレスデンが選ばれたのだろうか？

当時のラフマニノフは、ロシアの政情不安に加え、ピアニストや指揮者として多忙な演奏活動を送っていたが、それがかえって彼に精神的不安定をもたらし、音楽家としてのもう1つの重要な柱である作曲活動に打ち込めなくなっていた。というわけで、大都会ではなく、しかし文化的な刺激に事欠かない都市、ということでドレスデンに白羽の矢が立つことになった。

ラフマニノフが滞在した当時のドレスデンは、ドイツ帝国の一都市という位置付けである。いっぽう、1871年に誕生した同帝国を構成する国の1つ「ザクセン王国」の首都でもあった。しかもこのザクセン王国だが、特に18世紀（当時は「ザクセン選定侯国」という名前だった）以降、ドイツ地方の君主国の中でも強国となり、その都であるドレスデンもヨーロッパ有数の宮廷都市へと成長する。中心部に威容を誇るツヴィンガー宮殿も、まさにこの時代の産物だ。

ちなみにヨーロッパの宮廷といえば、音楽文化の面ではオペラが欠かせない。そしてドレスデンも例に漏れず、古くから優れた宮廷歌劇場が存在した（なおこの歌劇場附属のオーケストラこそが、現存する最古のオーケストラの1つと言われるシュターツカペレ・ドレスデンである）。しかもラフマニノフがドレスデンに滞在していた当時の同歌劇場は、リヒャルト・シュトラウス(1864-1949)のオペラ《サロメ》《エレクトラ》等、話題の新作を次々と初演していた。

このように、ドレスデンはドイツ帝国の中では一種の地方都市でありながら、同帝国の誇る優れた文化都市の1つだった。まただからこそ、ラフマニノフにとっても落ち着いた環境下で、しかも音楽の先端に触れつつ、自身の作曲活動を展開できたのだろう。



1890年代のドレスデン。彩色写真。

横浜定期演奏会は
2025年9月開始のプレ70周年シーズンより
【15:00開演】になります。

14:10 開場 14:20 オーケストラガイド 15:00 開演

■テレビ番組レギュラー出演のお知らせ

日本フィルがBSに。指揮者が語るミニ番組！『Welcome クラシック』BS朝日
毎週水曜日 22:54～23:00（第3週、第4週は再放送）。ぜひご覧ください！

■本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。
フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

シーズンファイナルパーティー

横浜定期恒例の
シーズンファイナルパーティー！
終演後1階客席ホワイエにて
出演者のトーク、楽員による演奏を
お楽しみいただきます。奮ってご参加ください。

参加費
無料



※ドリンクの提供は
見合わせます。

◆定期会員券ご寄付のお願い◆

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【ご寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

- 公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。●会員券のご郵送料はお客様にてご負担いただきます様ご協力をお願いいたします。
- ご寄付いただいた定期会員の皆様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。
心より御礼申し上げます。

6月の寄付者 匿名6名

敬称略・五十音順

横浜定期会員の特典

横浜ベイホテル東急（横浜みなとみらいホール向かい）にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食：下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。（4名様まで）※除外日および対象外メニューあり

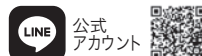
オールデイダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に横浜定期会員券をご呈示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。
※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですのでご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 (1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊暁雄
- 桂冠名誉指揮者/小林研一郎
- 名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
- 名誉指揮者/ジェームズ・ロッドラン
- 客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ
- 首席指揮者/カーチュン・ウォン
- 桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
- フレンド・オブ・JPO (芸術顧問) /広上淳一

公式X (元Twitter)
@Japanphil



ソロ・コンサートマスター
扇谷泰朋
木野雅之
田野倉雅秋

アシスタント・
コンサートマスター
千葉清加

第1ヴァイオリン

伊藤太郎
太田麻衣
九鬼明子
齋藤政和
柳 渚
竹歳夏鈴
谷崎大起
田村昭博
中谷郁子
西村優子
平井幸子
本田純一

第2ヴァイオリン

遠藤直子
大貫聖子
岡田紗弓
神尾あずさ
佐藤駿一郎
末廣紗弓
豊田早織
町田 匡
松川葉月
山田千秋

ヴィオラ

☆安達真理
江藤史織
小俣由佳
中澤基道
児仁井かおり
高橋智史
中川裕美子
中溝とも子
松澤雅奈

ソロ・チェロ
門脇大樹
菊地知也

チェロ
石崎美雨
伊堂寺 聡
江原 望
大澤哲弥
久保公人
篠原和仁
山田智樹

コントラバス
鈴木優紀
成澤美紀
宮坂典幸
森田麻友美
山口雅之

フルート
真鍋恵子
齋藤光晴
難波 薫

オーボエ
◎杉原由希子
◎松岡裕雅
佐竹真登

クラリネット
◎伊藤寛隆
◎楠木 慶
照沼夢輝
堂面宏起

ファゴット
◎田吉佑久子
◎鈴木一志
中川日出鷹

ホルン
◎丸山 勉
◎信末碩才
伊藤 舜
原川翔太郎
村中美菜

トランペット
◎大西敏幸
◎大飼伸紀
中里州宏
中務朋子
星野 究

トロンボーン
◎伊藤雄太
◎笠間勇登
福島莉那

バス・トロンボーン
中根幹太

チューバ
柳生和大

ティンパニ
◎エリック・バケラ
◎池田健太

パーカッション
大河原 渉
□本間雄也

ハーブ
松井久子

楽団長
星野 究

チーフステージマネージャー
阿部紋子

ステージスタッフ
長橋健太
森田大翔

チーフインスペクター
佐藤駿一郎

インスペクター
鈴木優介
谷崎大起

ライブラリアン
鬼頭さやか
坂庭史映
杉本哲也

会長 (代表理事)
平井俊邦

理事長 (代表理事)
石塚邦雄

副理事長 (代表理事)
五味康昌

専務理事 (代表理事)
福井英次

常務理事 (代表理事)
後藤朋俊

理事
石井啓一郎
佐々木経世
田村浩章
戸所邦弘
葉田順治
福本ともみ
別府一樹

監事
福澤宏哉
細谷義徳

評議員会会長
加藤丈夫

評議員
青井 浩
安孫子 正
荒崎康一郎
石村 等
稲垣 尚
内川清雄
大塚宣夫
梶浦卓一
河北博文
喜多崇介
木村恵司
久保田 隆
小林研一郎
島田精一
津田義久
中根幹太
西澤 豊
野間省伸
福満一夫
村上典史子
山口多賀幸

名誉顧問
熊谷直彦
島田晴雄
田邊 稔

チーフマーケティングオフィサー
伊藤治彦

マネージメント・スタッフ
浅見浩司
磯部一史
江原陽子
及川ひろか
小川紗智子
荻島里帆
賀澤美和
柏熊由紀子
金田雅子
小須田萌
佐々木文雄
澤田智夫
篠崎めぐみ
杉山綾子
杉山まどか
高橋勇人
田中正彦
樋谷祐子
中村沙緒里
西田大輔
西田真菜
長谷川珠子
樋高雄太
藤田千明
古館順一
益満行裕
宗澤晶子
山岸淳子
吉岡浩子
和田美希

シニア・パートナー
新井康允
伊波 睦
永島義郎
南部洋一
吉江信博

団友
青柳哲夫
青山 均
赤堀泰江
新井豊治
石井啓一郎
伊藤恒男
伊波 睦
宇田紀夫
遠藤 功
遠藤剛史
大石 修
大川内 弘
寛 美知子
加藤祐
金本順子
蒲谷隆行
川口和宏
川口 貴
菊田秋一
岸良開城
吉川利幸
木村正伸
小林俊夫
小山 清
斎藤千種
佐々木裕司
佐藤玲子
菅原 光
高木裕子
高木雄司
高木 洋
高倉理実
高山智仁
田沢 烈
立川和男
富坂俊子
富樫尚代
豊田尚生
中川二朗
永田健一
中務孝彦
奈切敏郎
橋本 洋
畑井紀代子
平賀法子
福岡喜裕
松本克巳
松本伸二
三本克郎
宮武良平
三好明子
森 茂
山下進三
山科淑子
渡辺哲雄

(2025年7月1日現在)

◎首席奏者 ☆客演首席奏者
○副首席奏者 □試用期間